

文字もじ MOJI の世界

28. 江戸時代と現代の極太書体

石川とも子*

極太書体

極太書体、つまり筆画がとても太い書体は存在感が強く目立って印象に残りやすい。そのためグラフィックの一部として機能し、遠くから見つけたときに読む前でも文字の形から表現したい雰囲気を伝えられる。看板や広告、本の表紙、webのトップ画像、見出しなどでよく使用されている。今回は日本の江戸時代と現代、大きく2つに分けて極太書体を紹介していく。

江戸時代の極太書体

江戸時代は長らく続いた戦乱の世が終わり社会が安定して様々な文化活動が活性化し、大衆の間にも娯楽や読み書きが広まった。歌舞伎や相撲といった大衆芸能が発達し、それらと共にある広告や看板に施される文字にも趣向が凝らされるようになる。そうして勘亭流、相撲字といった専用書体が登場した。

歌舞伎の雰囲気をもつ書体として発達したのが勘亭流である。劇場の看板を書くために登場し、番付などにも用いられるようになった。太い筆に濃い墨をどっぴりつけて書いた線、くねっと曲がる起筆やうねりのある骨格が特徴である。現代では勘亭流のデジタルフォントも開発されているが、職人による手書きの勘亭流も受け継がれている。

相撲字は相撲の興行の各所で使用されている書体だ(図1)。巨体の力士がぶつかり合う様子を表すかのように、直線的な骨格に太くどっしりした筆画で書かれる。大相撲番付は江戸時代から現代まで大きな変化がない例の一つで、相撲字でみ

っちりと書かれることは勿論、東西に分けるレイアウトまでそのままだ。勘亭流と同じく現代ではデジタルフォントとしても使用できるが、相撲の行司の間で書体を受け継がれているため手書きの相撲字も現役である。

同様に江戸時代に発達した書体に籠字がある。細い筆で輪郭をとって中を塗りつぶす、という方法で書くのが籠字だ。特定の文化の専用書体として始まったものではなく、文字を目立たせたい場面でもよく使われる。例えば提灯は江戸時代から看板としても利用され、現代でも同様に提灯を看板にしているお店が数多くある。この提灯に入れる

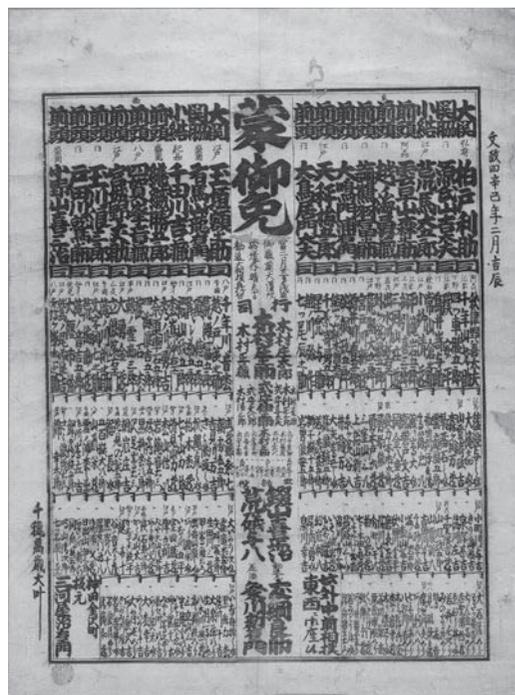


図1 約200年前の大相撲番付(都立中央図書館特別文庫室所蔵)

文字も江戸時代から変わらず籠字がよく選ばれる。

ここまでで紹介した書体は、看板用、告知用の文字という共通点がある。遠くからでも見栄えのする極太書体が発達するのも自然な成り行きだろう。歌舞伎や相撲などの文化を愛する人々が、その文化の雰囲気を持つ文字にも愛着をもち、同じ用途で同じ書体を使い続け、文化と共に書体も現代まで引き継がれた。登場から200年以上経った今でも江戸の空気や文化を伝える書体として活躍している。

現代の極太書体

活字、写植の時代を経て、デジタルフォントへ。江戸時代から随分状況は変わった。そして現在では、印刷だけではなくディスプレイ上でも書体が活用されている。これがどのように極太書体に影響するのだろうか。極太書体の役目でもある、個性の主張と目立つことというのは、ロゴタイプやレタリングが主流の分野でもある。それがデジタルフォントになると、データの扱いやすさ、多くの媒体への展開のしやすさ、誰でも活用できるといったメリットが生まれる。そしてインターネット、特にSNSが活発な近年では誰もが情報の発信者となる。目立つために、個性を表現するために選ばれる極太書体は人の目に止まるチャンスに恵まれている。では、ここから現代で注目したい極太書体の事例を紹介しよう。

まずはフォントワークス開発のラグランパンチ。アニメ『キラキラ』で使用されたのが有名な事例だ。映像内の多くのシーンでラグランパンチが大きく印象的に扱われている。ラグランパンチではなく「キラキラの文字」と言うのと伝わることもあるほどである。関連グッズやファンアートでもこの書体が効果的に使用されている。他にも、漫画装丁、ゲーム関連のグラフィックなどでもよく活躍している。

次に視覚デザイン研究所開発のロゴ Jr ブラック。限界まで挑戦した太さと、思い切った骨格の仮名が特徴の書体である。こちらの書体は最近、

YouTubeのサムネイルで見かける機会が増えた。動画がSNSなどでシェアされる際もサムネイルが表示されるため、サムネイルは本の表紙とも近い重要な画像である。動画内ではテロップにも使われる。無機的かつ個性的な骨格が、ゲーム実況やVtuberといったYouTubeのコンテンツと相性が良いように感じる。

ゲーム『Splatoon』にはオリジナルの極太書体がある。ゲームと同じく任天堂が開発した。Splatoonが持つスポーツ性とインクで遊ぶという点を意識し「太くて有機的であること」をイメージしてデザインされた書体である。可読性も意識され、細かい調節の上でゲームのUI(ユーザーインターフェイス)に使用されている。また専用フォントとして、公式のWebサイトやアプリ、グッズ、告知用グラフィックなど利用シーンは幅広い。ゲームのヴィジュアルイメージを一貫して表現するためのツールとして文字も重要な役割を担っている。

白州書体開発の魂心という書体は、力強く人間味のある筆文字である。ベタ組みでも使用されるが、サイズ、配置などを調整して手書き感を出す手法とも相性が良い。北海道発、そして全国展開となったバラエティ番組『水曜どうでしょう』のテロップで使用されている。よく名言が生まれるこの番組だが、「集え(魂心書体)」「旅のカリスマ」などいくつかの名言はこの魂心書体で組まれた。その他にもコメディ漫画や面白Tシャツなど、



* ISHIKAWA, Tomoko
タイププロジェクト株式会社
タイプデザイナー
〒177-0041 東京都練馬区石神井町 4-11-23
admin@typeproject.com



図2 金シャチフォント殿を使用したTシャツ

魂のこもったフレーズが飛び出すコンテンツでの使用を見かける書体である。

そして最後に、金シャチフォント殿を紹介したい(図2)。金シャチフォント殿は、タイププロジェクトが立ち上げた都市フォントプロジェクトのひとつとして、名古屋をイメージするフォントをつくり、地元で育て世界へ発信しようという試みで、現在開発中のフォントである。名古屋で古くから親しまれている市章、丸八マークの筆法を文字に応用している。文字の太さは、味噌カツ、土手煮といった名古屋メシのこってり濃いめの味付けにも由来し、シャチホコや名古屋城から着想を得た、ソリやハネも書体の特徴だ。金シャチフォント殿を使用したTシャツやトートバックなどがお土産として名古屋で販売されている。文字メインのグラフィックでも、名古屋の印象を持った太身の文字を使用することで名古屋らしさのあるご当地グッズに仕上がっている。

このように作品やキャラクターのファンが、そ

こで使用されている文字にも興味をもったり、地域を盛り上げる活動をしていく中で関連する文字にも関心を寄せたりすることがある。元々は文字やデザインに興味のない多くの人々にも極太書体はストレートにイメージを伝えることができる。現代ではインターネットやデジタルフォントといった環境が整っているため、webサイトやグッズなど新たな使用の可能性が生まれやすい。目立たせるために数文字だけを使用したい場合にはフォントの購入をためらうこともあったが、近年普及しつつあるフォントの年間定額セットに入っていれば、使いどころを見つけた際に追加のコスト無しで使用することができる。

極太書体のこれから

目立って個性を発揮する極太書体は、時代の空気や文化の雰囲気力を強く表現できる書体であると言える。そのことを、作り手と使い手が共に意識していくことで、より豊かな文字表現が可能になる。現代は江戸時代に次ぐ極太書体の興隆期だと私は考えている。江戸時代では、文化とともに文字表現も活気付き後世まで残る書体が生まれた。威勢の良い極太書体は、再び現代で人々が愛する文化とともに世の中を盛り上げる原動力になるのではないか。タイププロジェクトではその一つの答えとして金シャチフォントを開発中である。また他の作り手によってさらに多くの極太書体が登場し、今の時代を活気づけることを期待している。

印刷技術基本ポイント 文字・書体 編

「印刷雑誌」編集部[編]
四六判・64ページ 1,000円+税

和文を中心に書籍や雑誌をはじめとした印刷媒体、さらにデジタル機器の表示まで、文字の基本を解説。

印刷技術基本ポイント 組版・ページネーション 編

「印刷雑誌」編集部[編]
四六判・64ページ 1,200円+税

文字の並べ方や行を組むルール、ページのデザインなどについて、基本から応用までを解説。



●好評発売中●

印刷技術基本ポイント シリーズ

プリプレス編
枚葉オフセット印刷編
UVオフセット印刷編
オフセットインキ編
カラーコミュニケーション編
製本編
POD編

四六判・並製
64~80ページ

印刷学会出版部

<http://www.japanprinter.co.jp/>